

提案名	丹沢桧で造る相模の家・Ⅱ	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	新進建設株式会社	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

■提案の基本的考え方

- ・丹沢山塊の麓、神奈川県秦野市を代表する工務店の1社である新進建設と、神奈川県下最大の県産材取引量を誇る製材・プレカット業者の市川屋。そして、建築設計のみならず長年にわたり既存住宅の耐震改修と、それに伴う住宅履歴情報システムの開発に注力してきた一級建築士事務所・アルスデザインアソシエイツ。
- ・前年度提案では、上記3社が異業種ながら協業的なネットワークを組み、相互に補完しながら構築する、長期優良木造住宅「丹沢桧で造る相模の家・Ⅰ」を提案し採択されました。
- ・本年度提案「丹沢桧で造る相模の家・Ⅱ」ではさらに地元行政・保険法人・地域の住宅関連産業等の協賛を得ました。
- ・「丹沢桧で造る相模の家・Ⅱ」は地域材活用の取り組みを市民に見える形でネットワーク化し、単に住宅用資材調達という位置づけを超えて、循環型社会を構築することを目標としています。

■提案内容

■神奈川県産材ほか、持続可能な森林から産出された木材を利用した家づくりを推進する

□丹沢山塊の森

- ・神奈川県丹沢の山森は、首都圏に存在しながらも莫大な面積を有している。しかし、その山は荒廃し森林本来の機能（水源のかん養、山地災害の防止等）を失いつつある。

□丹沢桧で造る相模の家・Ⅱ

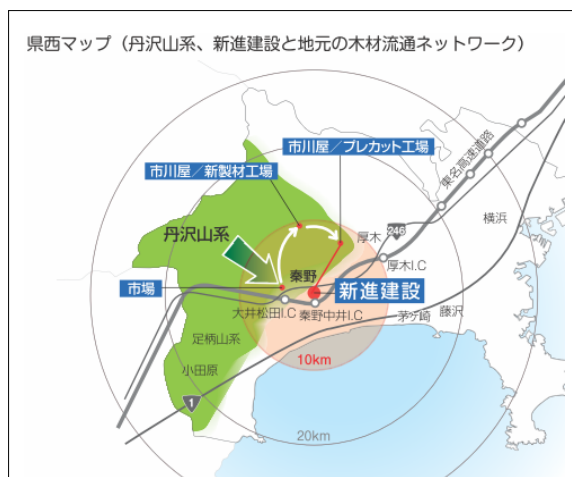
- ・前回提案、丹沢桧で造る相模の家・Ⅰでは、土台と柱材を神奈川県産桧材とした。
- ・当提案「丹沢桧で造る相模の家・Ⅱ」では、さらに横架材を神奈川県産材とするほか、更に国産原材料を使った構造用合板を採用するなど、構造材の国産材化率を向上した。また構造材のみならず、県産材を使った仕上材や外構材の開発を行い、木材利用の幅を広げた。

□川上から川下へ・流通工程の合理化

- ・丹沢桧で造る相模の家・Ⅰで仕入れから配送まで、縦フローのシステムを構築した。

□製材の品質確保

- ・構造材としての強度はもちろん、桧・杉は神奈川で最も産出され、流通している樹種であり、安定供給が可能である。
- ・製材の乾燥、強度試験、グレーディング、ラベリング、トレーサビリティは株式会社市川屋が厳密に管理し、製材情報は共同提案者のアルスデザインアソシエイツが開発した履歴情報システムに保管される。



□丹沢桧で造る/地元住宅関連産業との連携

- ・協賛企業である県内家具工房や建具工房と協働。丹沢桧で造った家具や照明器具を開発した。
- ・開発された照明器具や家具は、当提案住宅の標準仕様として盛り込むほか、家具は見学会において展示・販売。地産地消を促進する。

□丹沢桧のウッドデッキ/間伐材を利用した新商品づくり

- ・共同提案者である製材プレカット業者「市川屋」と協働。丹沢桧の間伐材に製材/プレカット加工を施し、住まい手が簡単な作業で組み立てられる「ウッドデッキ」を開発。DIYセミナーを開催し市民への啓発普及に努めた。
- ・当提案住宅の外構においては上記の「ウッドデッキ」を計画に盛り込み、更なる間伐材活用を目指す。



■地域社会と協働して間伐材の有効利用に努め、丹沢の森の適正な整備保全に寄与する

□すみ[住・炭]ネットから始まる「健康住宅」「まちなみ・住環境」づくり

- ・当提案の協賛団体である地元NPO法人「四十八瀬川自然村」の森林整備事業で伐採された小径木の間伐材や、当提案住宅の構造用木材の製材の際に排出された端材を、地元秦野市の炭焼き釜で炭として加工。袋詰めして商品化し新進建設が買い取ることで、その利益を再び間伐促進に役立てる。
- ・炭袋を当提案住宅の1階水廻り付近の床下に敷き、調湿材として活用する。
- ・さらに炭焼きの際に排出される炭の端材や粉末を、当提案住宅の外構用客土の土壌改良材として活用し、地域の緑化促進に寄与する。



■提案者からのコメント

- ・社会の仕組みや国民の指向の変化に対応できる、良質な住宅の供給・維持管理体制が求められる中で、住宅供給の大勢を占める地域工務店のレベル向上のために、長期優良住宅認定基準や当先導事業の役割は重要であると考えます。
- ・また地域に根差した工務店が、森林保全と循環型社会の構築の意義を理解し、地域の気候風土に見合った長期優良住宅を提案し造ることが、社会の財産として役立つ長寿化住宅の増加につながると考えます。